

## 学生と先輩の交流会

京機学生会 久保田 英仁

hidehi tokubota@t0913.mbox.media.kyoto-u.ac.jp

先日の 12/3 (土)に今年で3度目となる「学生と先輩の交流会」が開催された。

過去最大の学生 180 名,企業 95 社が参加となった。

運営を担当した京機学生会 (SMILE) のメンバーは,ようやく,無事に交流会を開催できたことに対する達成感と安堵,そして若干の不安,すなわち学生や企業の先輩はどう感じたのかという不安を噛み締める時間を持てるようになった。



そこで, 交流会の開催目的, 経緯, 新企画そしてアンケート結果による評価をもとに, この交流会について振り返る。

### 「学生と先輩の交流会」の開催目的と経緯

今年度は「自身のキャリアプランを, 多種多様な企業の人と交流することで具体化する」という目的の下, 京機学生会 SMILE は交流会を開催した。

そもそも, SMILE がこれまで行ってきた工場見学やキャリア企画, そして今回の交流会には, 一貫した「実現したい将来像を見つけ, それを学生が追い求めてほしい」という大きな目的があった。

この目的には, 次のような背景がある。我々が所属する機械系のコースでは, 例年多くの学生が機械系の技術者として企業へ就職している。しかし, 「機械系に属しているからなんとなくその分野で就職しよう」というのではなく, 学生が自分の将来に

ついて深く考え、どのような事をしたいか、どのような人物になりたいかを見つけた上で、その将来像を実現するための手段として進路を選ぶべきだという思いがあった。勿論、機械系に就職するなというつもりではない。現に、我々 SMILE のメンバーでも、上記のことを深く考えた上で技術系の就職を選んでいる者も多い。ただ、自分達が普段接することの少ない企業を直接見て、そして様々な視点から考えた上で進路を決めべきだと考えたのである。

以上の目的を達成するために、SMILE では下記の企画を開催してきた。

- ・ 8 月 試作ネット工場見学
- ・ 9 月 中部地区工場見学
- ・ 10 月 キャリア企画
- ・ 11 月 キャリア企画
- ・ 11 月 キャリアプランニング型工場見学
- ・ 11 月～ 業界分析
- ・ 12 月 学生と先輩の交流会

まず、「試作ネット工場見学」では座学中心の学生にモノ作りを現場で直に見、次に、「中部地区工場見学」では多種多様な職種の企業を見、そのような工場見学を踏まえて「キャリア企画」では自己分析の入り口ともいえる、自分の進路について考えるきっかけを作りたい。さらに、「キャリア企画」では自己を知り、それを正確に他者に表現できる場を作りたい。そして、「キャリアプランニング型工場見学」では就活に向けた意識向上と、就職後の人生設計を考えたい。

また、「業界分析」では、社会についてほとんど何も知らない我々学生が、30 以上の様々な業界について自ら調査した内容を学生に向け発表し、様々な業界についてお互い知識を深めていこうとしている。

SMILE では、これらの企画が実行された上で、交流会を開催することにより「自身のキャリアプランを、多種多様な企業の人と交流することで具体化する」という目的を達成したいと考えた。

## 【「学生と先輩の交流会」における新企画】



## ・パネルディスカッション

今年度から新たに、複数の企業の方と学生とがある議題に対して密に議論を交わす「パネルディスカッション」を企画した。

本企画の目的は、異なる立場の意見を知ることにより、学生、先輩の双方が見識を広め、交流を深める場としたいというものであった。また、企業の方にも多くの学生に自社の特徴、意見を伝える絶好の場になると考えた。

議題として主に2種類のキーワードを設定した。

一つは企業が大切にしているもの、すなわち学生が企業を選ぶ際に基準にすると考えられるキーワード。もう一つは、企業が社員に求めているもの、すなわち学生が自身の強みとしてPRすると考えられるキーワードである。

具体的には、前者として「創造性」、「社員教育」、「実力昇進」、後者として「チャレンジ精神」、「発想力」、「行動力」を取り上げた。

## ・懇親会

懇親会が今年から京機会・京機学生会の共催となった。

京機学生会 SMILE としては、ぜひとも、懇親会にも多数の学生が参加し、交流会とは一味違ったざっくばらんな雰囲気、交流会に参加の先輩は勿論、京機会総会に参加の先輩とも、親睦を深めたいと考えた。そこで、SMILE が学生に対して積極的に懇親会への参加を呼びかけることで、80名以上の学生が参加してくれた。さらに、学生と企業の方の交流を促進する案として、名刺交換大会なるものを企画した。これは、参加した学生がより多くの先輩方と接するように、先輩の名刺を多く集めた学生に賞品を用意するものである。この企画は、実際、学生と先輩の交流の促進に一役買い、多くの学生が様々な先輩と話すきっかけ作りになった。

## アンケート結果

### 《学生と企業の方の感想》

#### 1. 学生の感想

学生の満足度は図1の「学生の満足度」にあるように大満足が43%、57%が満足という素晴らしい結果であった。また、「企業に聞いたかった内容」は図2のような結果となった。企業情報、業種、職種を聞きたいという希望は強いようである。インターネットで大方の企業の情報は得られる現在においても、このような結果が得られたということ

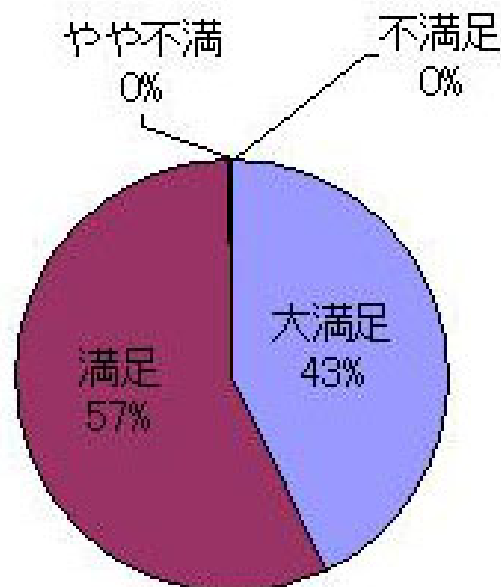


図1 学生の感想

は、学生がインターネット上では得ることのできない「先輩に直接会ってナマの話聞く」ことを大切だと感じているからではないだろうか。

また、学生の具体的な感想として一例を以下に挙げる。

- ・わざわざ会社の人に来てくれて普段聞けないような話を聞くことができた
- ・色々な分野の仕事をしている企業の話聞いたので勉強になった
- ・もう少したくさんの企業の話を知りたい
- ・本格的な就職活動前にできて大変良い
- ・もうちょっと回る企業について知っておくべきだったと反省した
- ・自分は製品に近いところで働きたいことを確認できた
- ・大変貴重な話が聞けた。またこのような機会があればぜひ参加したい
- ・どこにどの企業があるかわかりにくい

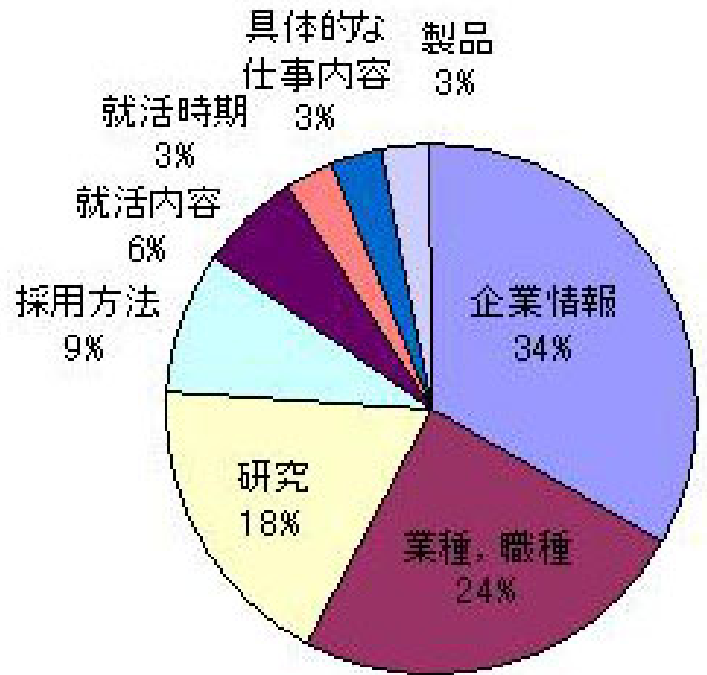


図2 学生が企業の先輩に聞いたかったこと

これらの反応から 学生にとって交流会は将来を考える上で貴重な機会になったと考えられる。また、学生は交流会の趣旨も理解してくれていたようで、積極的に交流会に参加しようという姿勢が見られた。

## 2. 企業の先輩の感想

「企業の先輩の満足度」は図3にあるように80%の方に満足と感じていただけた。

理由として一例を以下に挙げる。

- ・機械系の学生の興味や就職に対する意識を知る良い機会だった
- ・後輩と意見を交流できた
- ・学生と近い距離で話げできた
- ・興味、関心度の高い学生と出会えた

また、不満と感じた方の意見としては

- ・参加学生の数に対して企業が多すぎる



図3 学生の先輩の感想

- ・講演会と交流会との時間が重なり，講演会に参加できなかった
- ・教室奥の場所が割り当てられたため，学生の呼び込みがしにくいなどがあった。

その他，交流会全般に対する意見としては

- ・この時期に当社の業務内容を知っていただくことは大変有用
  - ・ブースに来た学生は皆さん意識が高かった，職業についてよく考えている
  - ・就職活動をする学生を見て，入社時の気持ちが思い出されて刺激を受けた
  - ・エンジニアとしてポテンシャルの高い学生が多い
  - ・学生スタッフの意気込みが感じられて好印象であった
- などがあった。

### 3. パネルディスカッションの感想

続いて，新企画パネルディスカッションには，図4に示すように参加者の90%以上に満足していただいた。理由としては

- ・企業の本音，望んでいることを深いところまで聞くことができた
- ・一度に5社の話が聞けた，また各社異なる意見が聞けてよかった
- ・自分の考えていたテーマとの違いを見つけられた
- ・質問の答えを企業の方全員に聞けたので，比較して社風などもわかった

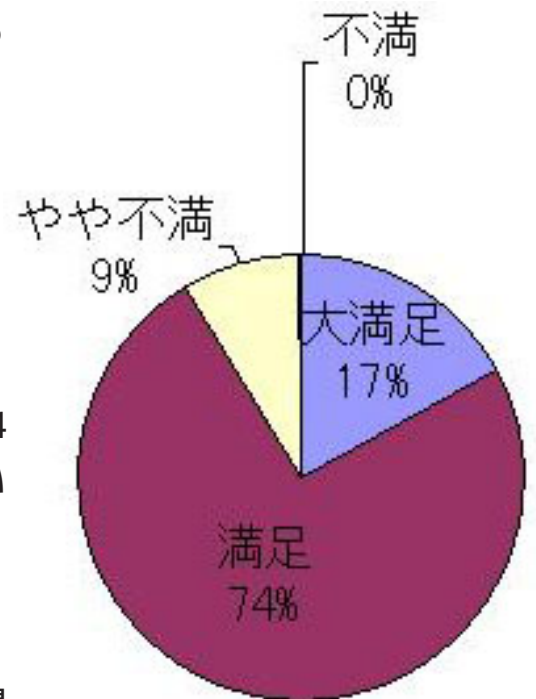


図4 パネルディスカッションの感想

不満足と感じた方の意見としては

- ・テーマが少し難しい
  - ・時間が短い，正直もう少しいろいろ聞きたかった，もっと深い話が聞きたい
  - ・円形の席配置だったのがかえってプレッシャーになった
- などが挙げられた。

また，このパネルディスカッションの目的は，「自分の将来像を実現できる環境を見つける」というものだったが、それに対する反応は下記のようになった。

- ・まだまだ見えてこないけど，フィードバックして考えようと思った
- ・今後具体的に考えていく材料となった
- ・テーマが難しすぎたのでそこまで届かなかった

- ・しっかりと自身の将来像を見据えようと思った
- ・そういった環境を想像することができた
- ・働くことへのモチベーションがあがった
- ・普段から物事を良く考えて生活することが、今回の目的を達成するために必要だと思った。
- ・企業にどのような環境を求めていけばいいかなんとなくわかった
- ・今まで漠然としか考えてこなかったものが言葉に出して発言し、それに対する生の意見を聞くことで具体的なものにされたと実感した

このように多くの学生が、「自分の将来像を実現できる環境を見つける」きっかけを掴んでくれたのではないかと考えられる。

## 今後への展望

大多数の学生や企業の先輩方に満足していただき、交流会の趣旨を理解してもらえたことで、交流会は目的を達成し、成功に終わったと感じている。しかし、新しい試みが今年も多くなされたことに加え我々 SMILE の力不足もあり、学生や企業の先輩方が不満に感じられた点もいくつかあった。今後、アンケートで寄せられた改善点やアドバイスを真摯に受け止め、全力で改善し、来年度以降の交流会を、学生と企業の先輩方双方の有益な交流の場にしたい。また、来年以降は、今年度を踏襲するのではなく、大胆に変革を行い、SMILE の独自性、メッセージをアピールしていきたい。

最後に、交流会に参加していただいた企業の皆様方、学生の方々、京機会の皆様、そして全面的にサポートされた教員各位、本当にありがとうございました。



## 9. 調和の原則 (1)

(つづき)

技術に対する人々の一般的な見方としては、より高性能、より多様、より自動的、より大衆的、そして経済的付加価値のより高い技術製品が歓迎され、また、より複雑なカラクリ、より大がかりな技術が高級技術、先進技術と見なされる。いわば、人間から離れれば離れるほど優れた技術なのである。このような技術は人間の偉大な創造力の産物のように見えるので、人々に人間の能力は無限であるという感動を与え、技術者の研究開発意欲を刺激する。このような技術はまた進歩主義、経済成長至上主義の世界の潮流にぴったりと適合し、産業界も官界も技術の開発研究を最も重要な位置に置いて促進する。この技術観のために、技術に何か社会的問題があっても、技術の瘦身化や単純化による解決法は後ろ向きの姿勢として頭から排除され、一層「高級な」技術によって解決することだけが求められる。こうして、この技術観に沿った新技術・新製品が社会の隅々を覆い、社会の技術に対する依存性がますます高まって

この記事中の地図・写真等は、本文と関係ありません。



<http://mediaarchive.ksc.nasa.gov/search.cfm?cat=86>

来た。これは、技術が技術を再生産し、技術が自己増殖する構図である。技術の自己増殖は人間のための社会をいつしか技術のための社会に換えてしまう。技術が人間から離れ、人間の操作できる範囲を超え、資源消費と環境汚染によって人間の生存基盤である地球環境をも破壊してしまう。

技術のすべてが悪いわけではない。技術とは自然法則を応用して人間に役立てることであるから、技術であるための条件は、自然法則に基づくことと、人間の役に立つことの二つである。優れた技術であるかどうかの基準は、この二つの条件にしっかり当てはまるかどうかであって、複雑巧妙さや創造性は、本質的には関係ない。特に、人間に役立つことは絶対的な条件で、一時的には役立つように見えても、長い間に人や社

会を蝕むような技術は、結局は本物の技術ではなく、技術が人間から離れて自己増殖するような技術社会は、本物の技術社会ではない。本物でない技術社会になったのは、上述したような現在の技術観に問題があるからである。

自然界には数限りない自然現象があり、各現象は全てそれぞれの自然法則に従っているが、それら個々の自然現象が集合して自然界全体をなしているのは、個々の自然法則のすべてが全体として調和を保っているからである。この調和は生物の世界、無生物の世界、人間の世界、宇宙の全ての小世界と大世界に存在する。小さな集合体にはその集合体としての調和があり、小集合体が集まって形成する上級の集合体には上級の集合体としての調和がある。こうして人間の集団の調和、一つの機械のシステムの調和、地域の調和、地球の調和、太陽系の調和、銀河系の調和が保たれているのである。集合体の内部が変化して調和が破れれば集合体は安定を失って崩壊するか、あるいは別の集合体に変る。したがって、集合とは調和に他ならない。要素群が安定した集合体を成すためには調和が必要であり、調和しない要素群は安定した集合体にはなり得ない。この調和原則は、公理とも呼べる自明の真理である。調和原則の表現法にはいろいろありそうだが、“集合体のすべての構成要素は、その割前を超えない”もその一つであろう。地球自然の中での割前とは、太陽から低エントロピーを受け、宇宙に高エントロピーを捨てることによって地球全体が営んでいる新陳代謝の範囲を超えないことでもある。

調和原則は、個々の自然現象が勝手に振舞わないことを要求する。自然界には、集合の調和が破れないように自律的に作用する調和力もある。生物学に言う Homeostasis(平衡維持機能)はその一種であろう。例えば胎内で心臓になるべくして進行する細胞の分裂増殖は、心臓が完成すれば自然に停止する。この機能が損なわれて分裂増殖が続けばその胎児は生存できない。東洋医学では、身体の調和力が弱まれば



五味調和

<http://www.matsufuji.jp/matu/gomi/gomi.htm>

ば器官のどこかが故障し、逆に器官の故障を復元するのは身体の調和力であると考えられる。一つの地域に生息している数限りない生物種は、全体として調和することにより一つの生態系をなし、何かの理由で一つの種だけが繁殖すれば必ずそれを抑制する力が働く。これも自律的調和力である。この調和力は千差万別で、天敵の発生であったり、共食いであったり、一斉に海に飛び込む鼠のように狂った集団行動であったりするが、調和原則を守るためには何でも起り得るということに、自然界の厳しさが伺える。



現代の人間社会も自然法則を応用した技術が基盤になっている以上、自然界と同じ調和原則から逃れることはできない。我々が調和原則を認識するか否かに関わらず、行き過ぎた人間の行為が調和原則を破れば、必ず自然の報復を受ける。持続可能な社会とは、調和原則を守ってよく調和を保つ社会であるということもできる。現在の技術は自然法則の応用には違いないが、自然法則のごく一部を切り取って拡大するだけで、最も基本的な調和原則をまったく顧みない。技術が自己増殖して調和を破る原因はそこにある。技術社会が自然の調和原則を破らないために、我々がなすべきことは、一つの技術を普及させる前に、その見かけの便益だけでなく、それが自然界から与えられた割前を超えないかどうか、言い換えれば、人間や社会や環境の如何なる方面に如何なる影響を与えるのか、その普及を可能とするだけの条件が地球の自然や人間や社会の能力に備わっているかどうかを、慎重に、かつ詳しく検討することである。調和を破る可能性のある技術は、どんなに便利でも、その使用範囲を制限せざるを得ない。しかし、自己抑制力を持った技術や社会が開発できれば、最も進んだ真の技術、最も高度な技術社会と言える。そこに人間の最高の創造力を発揮できないだろうか。

(つづく)

(1964年卒 石田靖彦 isiyas@aa.bb-east.ne.jp)

## 【編集後記】

あわただしく、一年が終わろうとしています。この一年、何とか、京機短信を発行し続けられました。各位のご協力のおかげです。有り難う御座いました。

この一年は、もしかしたら、第二次大戦後最大の激動の時であったかも知れません。

昔、戦略とは？ と定義を求められたことを思い出します。「このまま進めば自分の希望する状態に相手を持ち込めることになる」と言う事実、たとえ相手が気づき、そうなりたくないと思いがあって努力をしても、そうならざるを得ない状況に相手を追い込むこと」と、私は答えました。

大学の中に居て世界を見られていませんが、日本の大学をも含む教育の改革状況は、あるいは政治状況も、上の定義の「相手」が日本の様な気がしています。

ああ、日本は平和だナー。歴史を学ぼうともしない。と、今年一年が過ぎ、新しい一年を迎えようとしています。

良いお年をお迎えください。

京機短信 編修世話人 久保愛三



# SMILE LETTER

～スマイル・レター～

今月は先輩と学生との交流会の記事を書きましたが、交流会が京機会の行事ともなったこともあって、記事、写真とも短信本紙の方に載りました。 SMILE メンバーの写真もです。  
京機学生会の組織をしっかりとしたものにするための仕事を推し進め、来年度はより活躍を致します。



先輩と学生との交流会

企業ブースでの質疑応答

## 学生フォーミュラプロジェクト KART 2006

活動報告 in December

12月3日、「2005 年度先輩と学生の交流会」に参加！

@京大物理系校舎

100社近い企業が参加された京機会と京機学生会 SMILE 共催の交流会に、我々 KART も車両展示、及び今年度大会報告という形で参加した。ロビーに威風堂々といった雰囲気



気で置かれた(そう感じるのは実際に製作した我々だけかもしれないが...)マシンを見て、多くの方が興味を持って声をかけて下さった。「えっ、全部自分たちで作ったの?」、「自分も学生時代にこんな活動があったらなあ」といった感想をいただき、自分達がやっているこの活動にますます自信を持って鋭意取り組んでいこうと決意を新たにした。実際様々な分野の企業の方がお声をかけて下さったのだが、一様にそのような感想を持たれており、やはり先輩方もものづくりが好きなのだと改めて実感した。夕方の懇親会では、今年度の大会の様子などを報告し、その後多くの先輩方と交流の機会を持てたことが何よりも嬉しかった。また、懇親会にて多くの先輩方からサポーターとしてご支援いただき有難うございました。今後も京機会の先輩方とのつながりを大切にしながら活動していこうと思った。

## 12月4日、フロムセブンミーティングに参加！ @高雄・嵐山

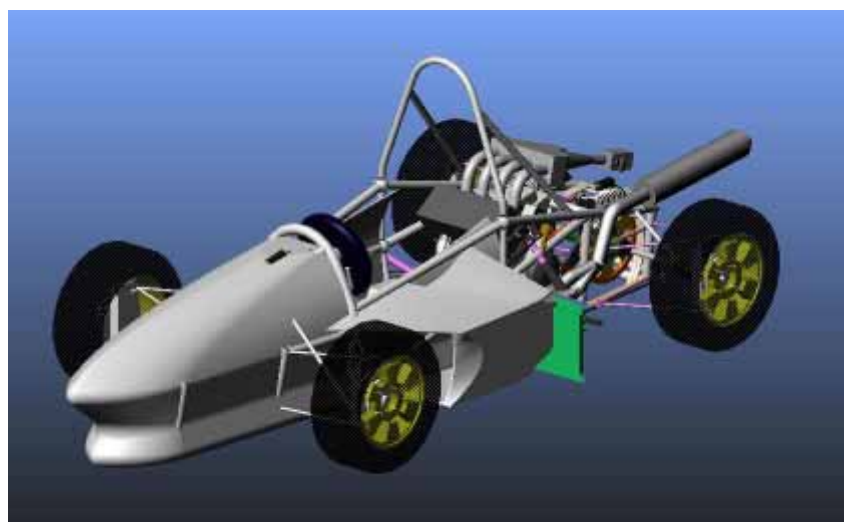
ブレーキ関連のご支援をいただいている株式会社ウミヒラの社長が会長を務めておられる、クラシックカーをこよなく愛するクラブであるフロムセブンの集會に、駐車場整理等のお手伝いということで参加した。



Benz、Alpine、Ferrari、Porsche、Super SEVEN と名立たる名車がずらりと並ぶ中、我々 KART も愛車を展示した。さすがに上記の様な名車の中にあっては上出来とは言い難いが、会場に来ている多くの方々が興味を示して下さった。また、我々 KART が出場している学生フォーミュラ大会では、審査の一つにマーケティングのプレゼンテーションがあるが、その調査の目的でレーシングカーのマーケティングというアンケートを実施し、約 100 人の方から回答をいただくことができた。ご協力いただいた方々、誠に有難うございました。新目標「来年は、この場に恥じないカッコいい車を作る!!」と決意した。

## 設計完成間近！

来年度の大会での活躍に向け、車両設計は順調に進んでおり、あとは最終設計を残すのみとなった。カウル形状もイメージ図から CAD に起こし、車両性能はもちろん、外観にもこだわった設計となった。車両設計の大体のイメー



ジが見えてきたので、今後はさらに細部を詰め、すり合わせを行って全体としてまとまりのある車両を目指していく段階である。ただ、進度が順調というのはある意味では問題点に気づいていないだけ、ということも十分に考えられるので、身近なところでは先生方、さらには企業で働いていらっしゃる先輩方にも意見を頂戴できたら非常に光栄である。

京機会の先輩方には一年間を通じて私たちの活動を暖かく見守っていただき、本当にありがとうございました。2006年はさらなる飛躍の年にしたいと思います。今後とも宜しくお願い致します。

### ご支援のお願い

KARTでは、資金・御品提供、技術指導をしてくださるスポンサー企業様、サポーター様を募集しております。資金は一口五千円をお願いします。ご支援に対しては、活動報告書の送付、HPやマシンへの広告記事などをさせていただきます。KART成功のため、何卒ご協力お願い申し上げます。

#### 振込先

京都銀行銀閣寺支店

店番141 口座番号 3242776

名前: KART FA 横小路 泰穂

#### 連絡先

代表 高木 隆史 takagi@t02.nbox.media.kyoto-u.ac.jp

チームHP <http://www.formula-kart.org/top.html>

